

## プレスセミナー

第13回日本臨床腫瘍学会学術集会は、「難治がんへの挑戦～医学・医療・社会のコラボレーション～」をテーマに、札幌で開催致します。それに先駆けて実施する報道関係者向けのプレスセミナーでは、がん領域のスペシャリストが、日本臨床腫瘍学会学術集会のアウトラインや各領域のトピックスについて分かりやすく解説致します。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

東京  
開催

**2015年6月25日(木)**  
**17:00～19:30(受付開始 16:30～)**

**国際研究交流会館3F 国際会議場**

〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1  
国立がん研究センター中央病院(築地キャンパス内)  
TEL: 03-3543-0332(代表)

主催: 日本臨床腫瘍学会 広報渉外委員会

札幌  
開催

**2015年6月26日(金)**  
**17:00～19:30(受付開始 16:30～)**

**TKP札幌ビジネスセンター 赤レンガ前  
5F「ライラック」**

北海道札幌市中央区北4条西6丁目1 毎日札幌会館5F  
TEL: 050-2018-0887(代表)




主催: 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会

### プログラム






17:00～ ご挨拶 徳田 裕(日本臨床腫瘍学会 広報渉外委員会 委員長)

17:01～ 日本臨床腫瘍学会活動状況 ー専門医制度を中心に 【東京】大江 裕一郎(日本臨床腫瘍学会 理事長)  
【札幌】秋田 弘俊(第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長)

#### 第一部 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会のアウトライン 難治がんへの挑戦～医学・医療・社会のコラボレーション～

-  17:10～ ①第13回学術集会の展望 秋田 弘俊(第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長)
-  17:25～ ②最新のがんゲノム解析に基づく新薬開発 【東京】後藤 功一(国立がん研究センター東病院 呼吸器内科)  
【札幌】木下 一郎(北海道大学大学院医学研究科 腫瘍内科学分野)
-  17:40～ ③最新のがん免疫療法 北野 滋久(国立がん研究センター中央病院 先端医療科)
- 17:55～ 質疑応答

#### 第二部 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会で取り上げられる、各領域のトピックス

-  18:05～ ④肺がん 大泉 聡史(北海道大学大学院医学研究科 呼吸器内科学分野)
-  18:20～ ⑤消化器がん 小松 嘉人(北海道大学大学院医学研究科 消化器内科学分野)
-  18:35～ ⑥乳がん 山下 啓子(北海道大学病院 乳腺外科)
-  18:50～ ⑦血液悪性腫瘍 豊嶋 崇徳(北海道大学大学院医学研究科 血液内科学分野)
-  19:05～ ⑧支持療法 辻 靖(KKR札幌医療センター斗南病院 腫瘍内科)
- 19:20～ 質疑応答 (10分)

※終了後、名刺交換のお時間を設けております

プレスセミナーに参加を希望される方は、6月19日(金)までに、別紙申込書にてFAX(0120-773-685)またはE-mail(press2015@sygmc.co.jp)にてお申込みください。

問い合わせ先

第13回日本臨床腫瘍学会学術集会プレスセミナー事務局  
(株)シナジーマディカルコミュニケーションズ内(担当:川村)

TEL:03-4533-1102 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-14-1 フロントプレイス日本橋9F



# 4つのキーワード

第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長/北海道大学大学院医学研究科腫瘍内科学分野 教授 秋田 弘俊

## 1

### 難治がんへの挑戦

～医学、医療、社会のコラボレーション～

がんを取り巻く環境において、難治がんへの対策と治療の開発が大きな課題となっています。難治がんへの挑戦とその克服には、多方面からの支援や社会全体での包括的な取り組みが必要不可欠です。

そこで、今回の学術集会では、「医学」「医療」「社会」の連携をテーマとして掲げています。まずは基礎医学シーズからの橋渡し研究に始まり、新規治療戦略開発、国際共同臨床試験なども含めた臨床研究、実地診療、患者サポートやサイバーシップ、医療経済や行政といった社会的側面に至るまでの幅広い項目を取り上げ、難治がんの克服を目指した活発な議論を行ってまいります。

## 2

### がんゲノム解析に基づく新薬開発

今日、ゲノム解析技術の発展により、さまざまながんにおいて、特徴的な遺伝子変異などの詳細な解析が可能になってきました。こうして明らかにされたがんの特徴に基づいて、分子標的治療薬の開発も加速しています。より効果の高い薬剤の開発にあたり、ゲノム情報をベースとした創薬はもはや欠かせないものです。

学術集会では、会長シンポジウムやASCO\*/JSMO合同シンポジウムにて、国内外のエキスパートの先生方をお迎えし、基礎と臨床を橋渡すゲノム解析の最新状況、そして新薬開発における課題と展望について、さらに議論を深めます。

\* American Society of Clinical Oncology

## 3

### がん免疫療法

外科手術、放射線治療、薬物療法のみならず、近年の研究の発展とともに、がん免疫療法の重要性にも注目が集まっています。がん細胞が本来生理的に備わっている免疫反応を抑制し、免疫監視機構から逃避している機序などが明らかになり、がん細胞と免疫とのかかわりに着目した治療薬の開発も進められています。

学術集会では、近年登場した免疫チェックポイント阻害薬の話題を特別講演やESMO\*/JSMO合同シンポジウムで取り上げるほか、がんの免疫制御の現状や今後の展開についてシンポジウム等でディスカッションしてまいります。

\* European Society for Medical Oncology

## 4

### がん薬物療法専門医

「がん薬物療法専門医」は、日本臨床腫瘍学会の認定する専門医です。2006年4月に47名が認定されて以来、過去10年間のがん治療における薬物療法のニーズの高まりとともに認定者も増え、2015年4月には、専門医が1,000人に到達しました。

学術集会では、この節目にあたり、会長シンポジウムにて2つの記念企画を実施します。「がん薬物療法専門医に望む」では、医師のみならず行政や患者啓発・支援など多角的な立場からの期待と課題を、「がん薬物療法専門医のキャリア形成(米国に学ぶ)」では、米国でご活躍中の日本人の先生方とともに、これからの専門医のあり方について討議してまいります。

**報道関係者の皆様のご来場をお待ちしております。**

第13回日本臨床腫瘍学会学術集会については、ホームページ、Facebookにおいて、随時情報を更新中です!